



城北小だより

11月号

さいたま市立城北小学校 令和4年10月31日

児童数 712名

Tel.048-757-5391 発行者 中村 篤

夢・探究心・思いやり

校長 中村 篤

新型コロナウイルス感染症が未だ収束の兆しを見せていませんが、日常生活においては行動制限緩和が進み、普段の生活を取り戻しつつあります。本校の教育活動においても感染症対策を十分に講じながら、昨年度まで中止されていた他校との交流も少しずつ始めています。10月18日（火）に岩槻区の親善バスケットボール大会が実施され、6年生の1クラスが河合小学校へ、3クラスが西原小学校へ行き、交流試合を行いました。どのチームも接戦に次ぐ接戦で、最後まで気が抜けない試合が繰り広げられました。10月26日（水）には特別支援学級の秋の交流会が実施され、西原中学校の体育館で、西原中学校、城北中学校、西原小学校の児童生徒とレクリエーションを行いました。中学生と小学生と一緒に仲良く楽しく活動する姿を微笑ましく思い、とても温かい気持ちになりました。また、10月27日（木）のつぼみの日には、6年生が城北中学校へ行き、生徒会の生徒から中学校生活について説明を聞いたり、授業の様子を見学したりしました。中学校に進学することを楽しみにしている子どもたちの姿が印象的でした。

さて、10月6日の日本時間午前1時、さいたま市が誇る若田光一宇宙飛行士が自身5回目となる宇宙飛行へ出発しました。約半年間、国際宇宙ステーションで、将来の月や火星探査に備えて実験を行います。若田宇宙飛行士が宇宙へ憧れをもったのは5歳の頃、アポロ11号が月面着陸するのを見たことがきっかけだったそうです。小学校1年生の頃にはテストが早く終わった後、テストの裏に大好きな飛行機やアポロ11号の絵を描いていました（さいたま市青少年宇宙科学館に実物が展示されているのでぜひご覧ください）。

若田宇宙飛行士はよく『夢・探究心・思いやり』の3つの言葉を大切にしてほしいと語っています。学校教育においても、この3つの言葉はとても重要な意味をもつと考えます。「夢」をもつことは、それに向かって努力することにつながります。「探求心」は、未知のことを解き明かそうとすることで自分自身の成長につながります。「思いやり」をもって、相手のことをしっかり考え、コミュニケーションを深めることで、仲間と互いに支え合うことができます。

また、「夢をもって、その夢に向かって努力すれば、きっとかなう」とも語っています。若田宇宙飛行士が努力と挑戦を続け、宇宙飛行士になるという大きな夢をかなえたように、城北小学校の子どもたちにも、夢をもって、あきらめずに努力することの大切さを伝えていきたいと思えます。

11月には「心を潤す4つの言葉」推進週間を実施します。「おはようございます」「はい」「ありがとうございます」「ごめんなさい」の4つの言葉を自然に発することができる子どもは、よりよい人間関係を築くことができます。これは若田宇宙飛行士が大切にしている「和の心」「思いやり」に通じます。本校では推進週間に限らず、子どもたち一人ひとりの心が通い合う学校や地域づくりを目指し、あいさつ運動等に積極的に取り組んでまいります。ご家庭でも、お子様と互いに気持ちのよい返事やあいさつを交せるよう、ご協力をお願いいたします。